

平成24年度箕面市普通会計決算の概要

<>の数値は、前年度との比較

普通会計決算の状況

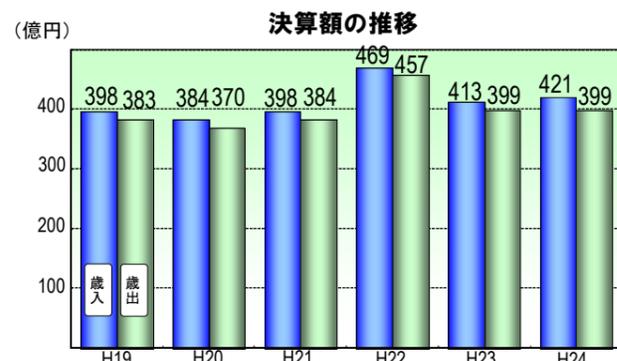
◆ 普通会計決算額

歳入総額 420億91百万円
 < + 8億41百万円、+2.0% >

歳出総額 398億70百万円
 < ▲ 16百万円、▲0.04% >

平成24年度は歳入、歳出総額ともに例年と同水準

実質収支 8億32百万円
 < ▲ 1億81百万円、▲17.8% >



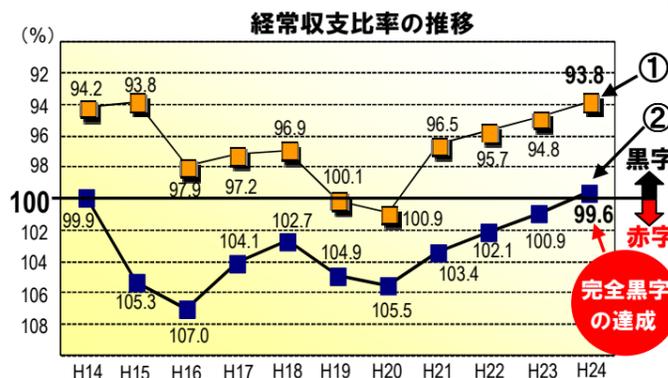
経常収支比率

◆ 経常収支比率 93.8% <▲1.0ポイント> ...①

行財政改革に基づく歳出削減により経常的支出を極力抑えたが、扶助費や繰出金など社会保障関係費が増加した。一方、年少扶養控除の廃止に伴う市民税の増などにより経常的収入が増加したことから、比率は前年度から1.0ポイント改善した。

なお、臨時財政対策債を除いた経常収支比率は平成14年度以来10年ぶりに100%を切る事ができた。

(臨時財政対策債を経常一般財源等から除いた場合は、99.6% <▲1.3ポイント> ...②)



経常収支比率の完全黒字達成

◇ 緊急プラン策定の背景

- 平成19年度決算で経常収支比率が100%を超え慢性的な経常赤字が顕在化したことを契機に、平成21年度以降5年間で273億円の財源が不足し、基金は3年で枯渇する見通しであることが判明した。
- この危機的な状況を打破するため、平成21年度から5年間の完全黒字化（経常収支比率100%以下）と財源不足額273億円の解消を目標とする「箕面市緊急プラン」を平成20年12月に策定した。
- 改革の実効性を高めるため、経常収支比率については、一般的に用いられる基準より厳しい臨時財政対策債を除いた“素の経常収支比率”を用いることとし、非常に高い目標をもって行財政改革に取り組むこととした。

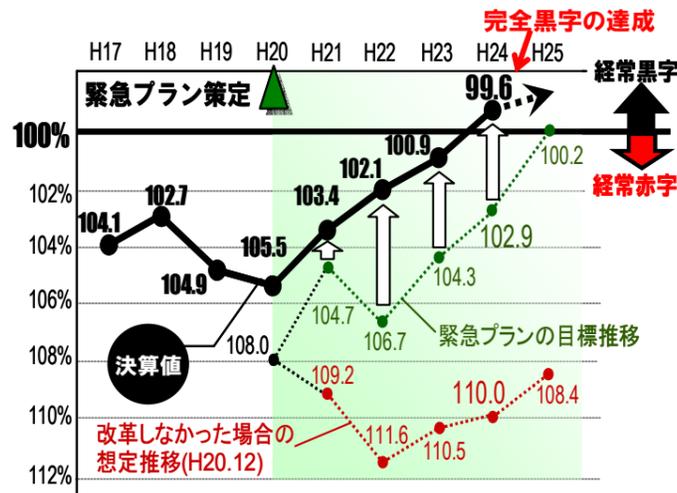
◇ 目標の達成

- この5年間で、職員給与の削減(38億円)、アウトソーシング等による事務事業の見直し(72億円)、企業会計等の運営経費の見直し(67億円)など徹底的な行財政改革を行った結果、平成25年度当初予算をもって273億円の財源不足を解消し、さらに今回の平成24年度決算で経常収支比率が99.6%となり、完全黒字化を達成することができた。
- 改革を断行する一方で、小中学校の耐震化100%達成など学校施設の整備に約163億円、稲ふれあいセンターなど公共施設の整備に約23億円を投入するなど、緊縮一辺倒に陥ることなく将来への投資も積極的に行った。

◇ 財政規律の堅持と将来への投資

行財政改革の成果を瞬間風速で終わらせず財政規律を高いレベルで堅持しつつ、これまでの改革により身につけた“基礎体力”をもとに、勇気をもって未来へ投資するメリハリのある行財政運営を実現していく。

これまでの改革	これまでの投資
<ul style="list-style-type: none"> 職員給与の削減 (38億円) アウトソーシング等による事務事業の見直し (72億円) 企業会計等の運営経費の見直し (67億円) 資産の利活用、競艇事業収益向上による歳入増 (25億円) 補助金の見直し等その他の改革項目 (43億円) 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校施設の100%耐震化、中学校給食室の整備、小中一貫校『彩都の丘学園』の整備など教育環境の充実 (163億円) 稲ふれあいセンター、多文化交流センターなどの公共施設の整備 (23億円) 北大阪急行線延伸に向けた基金積立 (12億円)



基金及び市債について

基金

◆ 基金増減額 ▲1億59百万円
 将来の金利負担を軽減するため、公債管理基金を活用し積極的に繰上償還を行ったことにより、基金残高は微減

(取崩額) 10億6百万円
 < +3億52百万円、+53.9% >

- 公債管理基金を活用した繰上償還 2億60百万円
- 民間養護老人ホームの整備費補助 1億50百万円
- 多文化交流センターの整備 1億40百万円 など

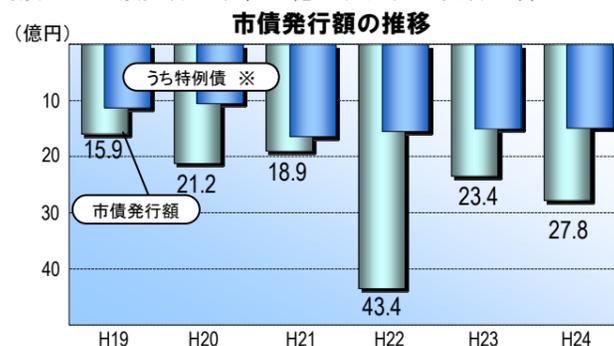
(積立額) 8億47百万円
 < ▲5億87百万円、▲40.9% >

- 交通施設整備基金 1億7百万円
- 保健福祉総合推進基金 1億23百万円
- 平成23年度決算剰余金積立 (公債管理基金) 5億20百万円 など

市債

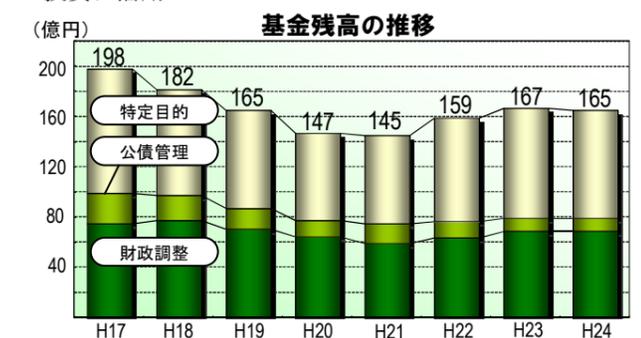
◆ 市債発行額 27億81百万円
 < +4億40百万円、+18.8% >

稲ふれあいセンターの整備など、将来の投資として施設整備事業債を12億98百万円発行した。なお、臨時財政対策債は、限度額まで全額発行せず、14億83百万円の発行に抑えている。



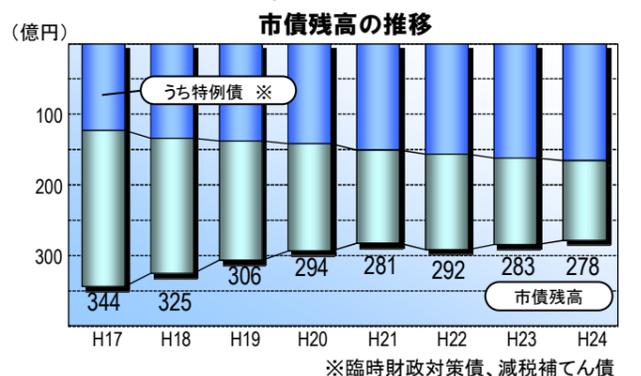
◆ 基金残高 164億91百万円
 < ▲1億59百万円、▲1.0% >

今後の財政需要に備えて基金を積み立てつつ、将来への投資に活用



◆ 市債残高 277億68百万円
 < ▲5億62百万円、▲2.0% >

通常の定期償還に加え、将来の金利負担軽減のため繰上償還を実施したことなどにより、市債残高は前年度からさらに減少した。



健全化判断比率及び資金不足比率

◆ 健全化判断比率

- 実質赤字、連結実質赤字は、いずれも黒字を堅持
- 連結実質赤字比率は、特別会計国民健康保険事業費の累積赤字の一部解消(約6億円)などにより、大幅に改善
- 実質公債費比率、将来負担比率は、いずれも改善

◆ 資金不足比率

いずれの会計も資金不足なし

(いずれも数値が小さいほど健全)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
H24	-3.36	-30.81	4.5	-58.5
H23	-4.14	-23.55	4.9	-53.3
早期健全化基準	12.10	17.10	25.0	350.0

会計区分	病院	水道	公共下水道
H24	-34.7	-84.5	-124.9
H23	-32.9	-71.3	-97.1
経営健全化基準	20.0	20.0	20.0

普通会計決算の概要

◆ 主な歳入の状況

- 市税収入 225億25百万円 < +2億3百万円、+0.9% >
- 市民税 +7億32百万円、固定資産税 ▲4億11百万円
- 国・府支出金 85億71百万円 < ▲6億66百万円、▲7.2% >
- 学校施設整備費負担金(『彩都の丘学園』整備完了) ▲8億2百万円
- 中学校給食導入促進事業費負担金 +2億18百万円

◆ 主な歳出の状況

- 義務的経費 215億8百万円 < +5億83百万円、+2.8% >
- 人件費(退職手当など) +1億44百万円
- 扶助費(生活保護費など) +3億21百万円
- 繰出金 36億78百万円 < +1億74百万円、+5.0% >
- 後期高齢者医療費、介護保険事業への負担 +1億16百万円

- 普通交付税 11億18百万円 < +3億46百万円、+44.9% >
- 地方債 27億81百万円 < +4億40百万円、+18.8% >
- 稲ふれあいセンターの整備 +6億41百万円
- 多文化交流センターの整備 +2億72百万円
- 『彩都の丘学園』の整備完了 ▲8億15百万円
- 中学校給食室など学校教育施設の整備 +2億46百万円
- 普通建設事業費 39億24百万円 < ▲3億92百万円、▲9.1% >
- 『彩都の丘学園』の整備完了 ▲21億26百万円
- 学校教育施設等の整備 +6億14百万円
- 稲ふれあいセンターの整備 +11億38百万円